

「(仮称) 町田市産業振興計画 19-28」第2回策定検討委員会 議事要旨

日 時 2018年5月9日(水) 17:00-19:00

場 所 町田市庁舎10階 第4会議室

出席者 大久保委員長、糸久副委員長、佐藤委員、佐々木委員、菅野委員、太細委員、安藤委員、
露木委員
(委員以外の出席者) 日本政策金融公庫 立本氏

事務局 経済観光部長 小池、産業政策課長 井上、産業政策課 佐藤、山野上、渡邊、五十嵐

(1) 新任委員・事務局紹介

- ・委員のうち、日本政策金融公庫の代表者が若林委員から安藤委員に変更。

(2) 第1回委員会の振り返り

- ・事務局から第1回委員会の議事要旨を報告。

(3) 報告

- ・資料2～4に基づき、事務局から補足データ、アンケート結果及び市職員ワークショップの開催結果について説明。

【委員からの意見等】

■立本氏

- ・町田市では飲食店の創業数が減ってきている。500～600万円といった、日本政策金融公庫の扱う規模の融資では、町田駅周辺での開業は難しく、2,000～3,000万円といった規模の融資を、他の金融機関と組んで行っているような状況である。

■糸久副委員長

- ・市職員ワークショップにおいて、交通に関して町田市の「強み」と「弱み」の両方に挙げられている点がおもしろい。町田市は広いので、地域によって交通利便性に差があり、そこが町田市の問題の一つではないかと思われる。

■大久保委員長

- ・町田市の交通機関が今後どのように変化していくかについては、計画策定の重要なポイントになると思われる。

(4) 議題

- ・資料5～7に基づき、事務局から経済・産業における町田市の将来像及び施策の柱についての事務局案を説明

【AI の発達について】

■佐々木委員

・AI の発達により、単純労働は機械が代替していくようになる。いずれは経営判断など、複雑な業務についてもその範囲が拡大していくのではないか。

■糸久副委員長

・究極的には、AI に代替される仕事と代替されない仕事に二極化されていくのではないかとされている。結果、仕事のある人とない人の格差が広がることも懸念され、ベーシックインカムなど、社会保障という視点からも対策を考えていく必要があるかもしれない。

■大久保委員長

・AI の普及によって余暇が増える一方、仕事が減ってしまう。町田市内でどのような仕事を作り出せるか、このあたりについても産業振興計画の中で考えていく必要があるのではないか。

【自動運転について】

■佐々木委員

・自動運転について、自動車本体が周囲の状況を判断して運転を行うタイプがある一方、中国で実験が行われているように、まちのあちこちにセンサー等を設置し、自動車はその情報を受け取って予測や速度調整を行うというタイプもある。町田市として、後者のようなやり方で自動運転の実験を行う場を提供していくこともできるのではないか。

■糸久副委員長

・町田市内の交通網に関する問題についても、自動運転はキーとなる技術ではないかと思う。地方での交通利便性を高めたり、効率化が図られたりするのではないか。ただし、町田の場合は、現在の駅前の道路状況や、デマンド交通などを考えると、多くの自動運転技術が導入されても収集がつかなくなるという可能性もあるので、現状に対してどのように対応していくのか、検討が必要ではないかと思う。

【モノやサービスを IT と結び付けていくことについて】

■佐々木委員

・IoT のように、モノやサービスを IT と結び付けていくことについては、今後ますます発展が見込まれる。ただ、これにベンチャー企業が単体で取り組むのは難しく、行政が協力して取り組んでいく必要がある。技術革新と 10 年後の町田について考えていくときに、市が能動的に取り組むことを考えていくのであれば、技術力のある市内企業との協力により、社会的にインパクトを与えるような製品やサービスを生み出すことができると思われる。

■露木委員

・今後はますます IT が発達し、ネット社会が加速していく。そうした中で、町田新産業創造センターには多くの IT 系企業が集まっているなど、「IT に強い町田」といったイメージを打ち出していくことも有効ではないか。

■大久保委員長

・「ITに強い町田」のような、産業振興計画のイメージを表現したキャッチフレーズがあるとよいのではないかと思う。

■太細委員

・交通利便性が高い、ITに強い部分もあるといったところを強みとして、町田駅周辺にサテライトオフィスなどの拠点を作り、都心でなくても快適に仕事ができる環境を整えていくことも、産業振興の一つの方向性ではないか。

■佐々木委員

・「オタク文化」も町田の特徴の一つではないかと思う。古着屋やライブハウス等オタク寄りの店舗が多数存在し、エンターテインメント系やコンテンツ系の人材が多いが、こうした要素がITとうまく融合できれば、町田らしい、おもしろいものが生まれるのではないか。

■佐藤委員

・町田市には建設業者も多く、職人氣質の技術者が多いが、今後10年ほどの間に多くの人退職するとも見込まれる。ITが成長する一方、こうした技術者の力はやはり必要であるとも思われるので、職人を育成する学校など、人材育成と雇用創出ができる仕組みがあるとよいのではないか。

■糸久副委員長

・職人やエンターテインメントのような「アナログ的な強み」をITと組み合わせ、新しい形を生み出していくというのは、産業振興の形として非常に良いと思う。

【起業・創業の促進について】

■安藤委員

・ビジネスプランコンテストなど、若い世代の起業・創業意欲を高めるための教育に取り組んでいくことが重要である。

■糸久副委員長

・機会があればベンチャーの起業に挑戦してみたい、という大学生は少なくない。すぐに創業に結びつかなくても、ビジネスプランコンテストなどの機会を提供することから始めていくのは重要なことであると思う。

■大久保委員長

・企業と大学等が協力し合い、ネットワークを広げて取り組んでいくことが重要であると思う。

■立本氏

・シェアオフィスやコワーキングスペースを利用し、自分1人、パソコン1台という規模から事業を始めている人も少なくないと思う。しかし、町田市にはそういった場所が不足しているのではないかという印象を受けた。新産業創造センターが満室であることからしても、需要はあるのではないかと思う。

■菅野委員

・例えば、廃校をインキュベーター施設として活用しても良いのではないかと。

■佐藤委員

・起業・創業も大事だが、一方で、どのようにして既存の事業者を元気にしていくかということも重要である。今後は事業承継の問題も顕在化すると見られ、事業承継や経営革新などの支援も重要な取り組み課題となるのではないかとと思われる。

【土地の有効活用について】

■事務局

・本日欠席されている、小山委員から、「市内に空いた土地が点在しているが、類似した産業については集積させ、土地の有効活用を図っていくことが重要ではないか。そのためにも、市が主導して規制緩和などを進めていく必要があるのではないかと。」といった意見を事前に頂いている。

■菅野委員

・このままでは、町田市内の既存企業は間違いなく減少していくと思う。都市計画に絡めて、土地利用の高度化を図るといった、ダイナミックなことができれば状況を変えられるのではないかと。

■佐々木委員

・町田市では、企業誘致の際に「土地がない」ということが大きな問題となっているので、土地利用の高度化などによって利用可能な土地を増やしていくことが重要ではないかと思う。

■大久保委員長

・交通機関や道路などを含めた、都市計画の骨子のような資料を示してもらいたい。

【まちの変化について】

■菅野委員

・モノレールや小田急線の延伸については、10年後はまだ計画段階かと思う。一方、リニア中央新幹線は2027年に開業予定であり、そのリニアによって町田がどう変わるかを考える必要がある。また、交通網の変化については、相模原や周辺の地域と一緒に取り組んでいけるような発案をして、議論を深めていければよいのではと思う。

■露木委員

・まちのイメージ戦略としては、鉄道駅が重要な役割を果たしていると思う。町田駅については小田急・JRともに老朽化が進んでおり、10年後にはまだ改築が済んでいるとは思わないが、将来について検討を始めていなければいけないと思っている。弊社にて、JRと小田急の駅をうまく大改装して、憩いの広場のような空間を作れたらよいという話はしている。

■佐藤委員

・団地の再生についても、多摩モノレールの延伸によって地域がどのように変化していくのかを踏まえて検討していくことが求められる。

■佐々木委員

・「都内に本社を置きたい」というニーズは間違いなく高まっている。せつかく橋本にリニアの駅ができるのだから、その近くに土地を確保することは、今後の企業誘致において効果的ではないかと思う。

【中心市街地の活性化について】

■事務局

・本日欠席されている、小山委員から、「現状では町田の中心市街地は飲食店が多くなっており、何も手を打たないと偏りがさらに激しくなるのではないか。もっと多様な業種の、やる気のある人たちが商店街に集まるような仕組みが必要ではないか。」といったご意見を事前に頂いている。

■大久保委員長

・学生からの意見で、「もっと町田でいろいろなことができるようになってほしい」というものがあった。中心市街地に多様な店を求めているというニーズはあるのではないか。

■菅野委員

・組合の若手に話を聞いたところ、「町田でいいや」という、面白いことを言っていた。これは自虐的な発言にも思えるが、「特別なことをするときには新宿など都心に出かけるが、普段の活動については町田で十分である」ということであり、「町田が好き（不満はない）」という意味では非常に重い言葉であると思う。町田の雑多な雰囲気、飲食店の集積などが若者には好まれているようだ。

【留学生について】

■糸久副委員長

・町田は交通利便性が高いので、団地などを活用した留学センターを作って、学生寮の中でビジネス日本語を教える施設を整備してもよいかもしれない。

【ライフスタイルの変化、子育て支援等について】

■佐藤委員

・働き方改革によって生活のスタイルが変化していく中で、産業振興をどのように図っていくのか、という視点も重要である。保育園に子どもを預けて働いているお母さん方がどこに働きに行っているのか、データとして見たい。

【施策の柱について】

■大久保委員長

・施策の柱については、事務局に提案いただいたものをベースに、今回委員の皆さまからいただいた意見を踏まえ、検討を進めていきたいと思う。また、今後具体的な事業を検討していく際に、柱の変更が必要な場合は、その都度対応していただきたい。